

パナマ政情(内政・外交)

1 内政

(1) パナメニスタ党党内選挙及び新執行部発足

2日、パナメニスタ党は党執行部等を選出する党内選挙を実施し、バレーラ元議会議長(バレーラ大統領の兄)が総裁に、バルデラマ前議会議長が幹事長に選出され、9日、党大会において新執行部が発足した(任期は5年)。

(2) コンベンションセンター建設計画にかかる不正融資疑惑

17日、検察庁は、HPCCP&V 社へのアマドル・コンベンションセンター建設計画にかかる融資に不適切な手続きがあったとして、フランコリーニ前貯蓄銀行総裁の身柄を拘束した。当時、同銀行理事だったパストル氏及びコレア氏も捜査対象となり、20日、検察庁へ出頭した。同日、検察庁は、貯蓄銀行への捜査を実施した。

(3) 民主革命党(PRD)党内選挙

30日、PRDは党執行部等を選出する党内選挙を実施し、ロビンソン総裁が再選、また、党非主流派のゴンサレス議員が幹事長に選出された。ロビンソン総裁は、党内融和及び与党と連合しない野党の重要性を強調し、ゴンサレス幹事長は、「党内融和のため2019年の総選挙には立候補しない。また、執行部役員が2019年の総選挙に立候補しないよう党規約を改正する」旨表明した。

(4) 選挙裁判所判事の選出を巡る与野党の対立

31日、野党PRD所属議員は、選挙裁判所判事選出については、さらなる時間が必要であるとして審議の延期を求めたことから、議会は紛糾し、実質的な審議が行われないうまま通常会期が終了した。今後の議会運営及び与野党関係が懸念されている。なお、バレーラ大統領は、臨時議会を招集する可能性を否定した。

2 外交

(1) セデーニョ・ドミニカ(共)副大統領のパナマ訪問

ア 4日、バレーラ大統領は、パナマを公式訪問中のセデーニョ・ドミニカ(共)副大統領と会談し、両国で実施している貧困削減のための社会開発プログラムに関して協議した。

イ 同副大統領は、サイン・マロ副大統領兼外務大臣及びロレーナ・カスティージョ大統領夫人が主催する社会開発担当閣僚特別会合に参加し、「政治における女性の役割」及び「女性の社会経済的エンパワーメント」等のテーマについて意見交換した。

(2) ケニー米国務省顧問のパナマ訪問

ア 6日、パナマを訪問したケニー米国務省顧問は、サイン・マロ副大統領兼外務大臣と会談し、「パナマは米国の戦略的パートナーであり、パナマを米州地域のハブとして利用する米国企業の増加により通商関係が強化されている等両国の緊密な友好関係に満足している。パナマの域内における地理的及び政治的立場を活用しつつ、国内及び域内安全保障のため協力関係を強化していく」旨述べた。

イ 同顧問は、不正規移民の問題に関し、同移民へ安全、人権及び尊厳を保証するパナマの努力に理解を示した。これに対し、同副大統領兼外務大臣は、「不正規移民を人道

的に取り扱うことを継続し、本問題を抜本的に解決するため域内各国と協力する」旨発言した。

(3) パナマ・コスタリカ首脳会談

ア 7日、チリキ県においてパナマ・コスタリカ首脳会談が開催され、バレーラ大統領とソリス・コスタリカ大統領は、不正規移民の流入、麻薬密輸及び組織犯罪に協力して対処することで合意し、不正規移民への人道的配慮及び人身取引ネットワークと闘う旨の二国間合意を再確認した。

イ 両国は、ハイチ移民の流入に関し協力して対処するため治安、移民及び外交当局の代表で構成されるハイレベルグループの創設に合意した。バレーラ大統領は、本会談によって不正規移民問題に対応する関係が強化された旨述べ、ソリス・コスタリカ大統領は、治安問題に関し、両国が配置してきた人員や移動手段を増強すると述べた。

ウ 両国代表団は、麻薬密輸をはじめとする国際的な犯罪及び犯罪組織に対処するため、治安、移民及び税関当局間の連携向上をめざし、協力関係強化を継続することで合意し、両大統領同席の下、ゴンサレス・コスタリカ外相とインカピエ外務次官は、「移民及び治安情報に関する警戒措置実施協定」に署名した。

(4) パナマ・独首脳会談

ア 18日、訪独したバレーラ大統領は、メルケル独首相と会談した。同会談には、サイン・マロ副大統領兼外務大臣、アロセメナ貿易産業大臣、エンリケス内務大臣が同席した。

イ バレーラ大統領は、「日本との(租税情報交換)協定交渉及び署名と同じ方法で、独との協定を結ぶことになるだろう。いわゆる「パナマ文書」は、租税回避という地球規模の問題の存在を明らかにした。パナマ政府の行動は、パナマの金融システムをより透明性の高いものにするという約束を達成するものである」旨述べた。

ウ メルケル独首相は、「いわゆる「パナマ文書」事件の発生後、パナマは迅速に対応し、すでに数か国との間で(租税情報交換)協定に署名している(ママ)。独との交渉は、本年7月に始まっており、今後6カ月以内の合意を目指している」旨述べた。

(5) パナマ・コロンビア首脳会談

ア 25日、ダリエン県においてバレーラ大統領とサントス大統領は、パナマ・コロンビア首脳会談を開催し、不正規移民、麻薬密輸及び国境を越える犯罪について協議した。

イ バレーラ大統領は、パナマ国民及びパナマ政府の名においてサントス大統領のノーベル平和賞受賞を祝福し、コロンビアの和平合意を支持する旨改めて表明した。

ウ 両大統領は、不正規移民の流入、国境地帯における治安並びに麻薬、武器密輸及び人身取引等の国境を越える犯罪に対処するため、治安、出入国管理及び情報当局間の連携を向上させる必要性及び信頼醸成措置及び不正規移民や国境を越える犯罪への対策を強化するため二国間年次作戦計画を採用することに合意した。

(6) バレーラ大統領のイベロアメリカサミット出席

29日、バレーラ大統領は、イベロアメリカサミットに出席するためコロンビアを訪問した。青少年の教育と雇用創出が主要なテーマとなった同サミットでは、コロンビア情勢についても協議され、コロンビア政府とFARC及びELNの対話促進を期待する旨のプレスリリー

スが発出された。また、次回サミットは、2018年にグアテマラで開催されることが公表された。

(7)コロンビア大統領のノーベル平和賞受賞

7日、パナマ政府は、外務省プレスリリースを通じて、サントス・コロンビア大統領のノーベル平和賞受賞への祝意を表明した。

(8)次期国連事務総長選出

13日、パナマ政府は、外務省プレスリリースを通じて、グテーレス前国連難民高等弁務官が次期国連事務総長に選出されたことへの祝意を表明した。